

「阪谷の今を考える座談会」第14回 ご報告

開催日：令和8年3月13日(金) 午後7時～

場 所：阪谷公民館 2階 大広間

参加者：13名

テーマ：市民協働によるこれからの住民自治



【座談会の目的やルール】

[目的]

- 阪谷地区の今について、みんなで思っていることや考えていることを自由に話し合って、そこから地域の問題解決のヒントになるようなことがないか、阪谷の望ましい将来像とはなどについて考えましょう。

(※みなさん、地域のいろいろな団体や会で役などをされているとは思いますが、ここでは、一個人として思いや考えを言っていたいただければと思います。)

[ルール]

- この会で結論をとることはしません。みなさんの意見は貴重なご意見として主催側で参考させていただきます。ですので、他者の意見に同調するのは大いにOKですが、否定することはやめましょう。

[その他]

- この会で出た意見は、貴重な意見として公開（氏名等は公開しません）することにご了承ください。

【座談会の様子】



【座談会（第14回）で出た感想、意見等】

市民協働によるこれからの住民自治の方針の説明会

住民自治とは「住民が自らの判断と責任で課題に取り組む活動」のことで、自治会(いわゆる集落)の活動やまちづくり活動(よくする会)などの活動のことを指す。

この住民自治の活動が、人口減少による担い手不足や役員の高齢化などの課題が生じてきており、今後も持続的に活動を続けられるよう、住民自治のリーダーなどが集まって検討会を設置し、これからの活動をどうするべきか意見を出し合い、これからの住民時の在り方、方針を検討した。

現在の住民自治活動は、担い手不足や担い手の負担増のほか、各団体が個別に活動していることによる活動の重複や、行事などのへの参加者の不足や固定化、生活様式や価値観の多様化といった課題がある。

こうした課題に対応し、人口が減少しても住民自治活動が継続し、多様化、深刻化するニーズに対応できるように、目指すべき地域づくりの方向性を示した。

方向性の一つ目が、「地域運営組織の設立」で、公民館を単位とした地区で活動する各団体の整理や統合、連携強化などにより、行事や会議、事務の共有化を進めて担い手の負担感の軽減と活動時間確保を図るとともに、活動やニーズを見える化し、住民ニーズの把握と活動・行事の整理、人材や担い手の発掘・育成につなげる。

二つ目は「活動拠点の位置づけ」で、これまでも地域づくり活動や地域福祉活動の拠点としてきた公民館を、幅広い活動が可能になる(仮称)地域交流センターへ位置づけを拡充し、地域運営組織の活動の自由度を高める。

三つめは「活動の展開」で、地区の目指す姿や将来必要となる活動などについてまとめた計画を策定し、具体的な活動を展開する。

今後は、持続可能な住民自治を目指し、今後の住民自治の在り方を検討し、次のような具体的な取り組みを進めてほしい。

- ①地区の人口や世帯構成の推移などの地区の現状を確認する
- ②地区の行事や会議、組織の棚卸しをする
- ③住民のニーズを知る
- ④地区の現状やニーズに対応した組織の見直し

阪谷地区においては、これから住民自治の継続の課題のほか、中山間地における農用地の保全、阪谷小学校跡地の利活用といった課題もあり、それぞれを個別ではなく、併せて一体の課題として取り組んでいく必要がある。

※市や阪谷地区の人口推計などの状況について説明

※地域運営組織の先進事例について説明

参加者からの発言など

◆公民館の位置づけを変えるのは、これまででは十分でなかったということか。公

民館へ権限を委譲するということか。

⇒これまでも公民館を拠点に様々な活動をしているが、各団体が個別に活動し団体の担い手に負担になっていた部分を、活動をまとめたり、重ねて実施したりすることで負担を軽減してはどうか、ということである。その中で公民館の位置づけを変えるのは、各団体や団体活動の整理統合、新たなニーズに対する対応などの検討すすめる中で、社会教育施設として活動の制限がある「公民館」の制限をなくし、地区で自由な活動ができる活動拠点としての役割を拡充するということである。

◆区長になるとよくする会の役員のほか、市や農家組合関係など多くの役職を兼ねることになる。区長になったので、責任感もあり各種活動に参加しているが、負担にもなっている。

⇒担い手の負担感の課題については検討会でも話された課題であり、各団体の活動を担っている役員などの担い手の負担を削減し、活動をしやすくするための方向性として「地域運勢組織の設立」を挙げている。住民自治活動の成功事例では、ほとんどの事例で地域運営組織を立ち上げ、住民自治活動をすすめている。

◆こうした説明会にも、自主的ではなく役職があるから来ている。他の人も同じようだと思うが、阪谷地区では、役職をもって責任のある立場になれば、責任をもって活動すると考える。その活動をまとめて新しい形にということであれば、主導する人が住民活動を先導していかないと始まらないと思う。

⇒これからの住民自治活動をどうしていくか話し合いを進め、その結果「いまのままでいいよね」となるのであれば、それも一つの形なのだと思う。しかし、今のままでいても将来的にはどうかということであれば、少しでも早く考えていく必要がある。今の地区はこんな状況で、何が足りなくて、何を必要としているのかを把握して一歩でも前に進めていってほしい。

◆漠然とした話で考えにくいので、テーマを決めてアイデアを出してもらえると進めやすい。今の人は集落ではなく、趣味などに幸福度を求めている。地区の行事などの優劣をつけて、整理していったらどうか。

⇒方針でも、中学生以上を対象に、住民アンケートを取ることを挙げている。困りごとに対し何をしてほしいのか、とか、遠くに出るのが億劫で近くにガソリンスタンドが欲しいなど、地域にあるといいことやものなど、地域の人が何を求めているのかをアンケートを実施してとりまとめ、その結果からアイデアを出していくと考えやすい。

◆今日参加している人は話を聞いているが、集落へ帰って説明ができるほどには理解はできていない。参加していない人への説明はないのか。

⇒市の「わくわく講座」の内容に追加したので、講座として呼んでもらえば、集落へでも説明に行く。

◆行政区の合併を考えているのか。区によっては戸数が少なくなり、区としての活動が困難になってきているところもあると思う。

⇒市から行政区の合併を働きかけることはない。地区の状況や住民の皆さんの

考え方もあるので、地区内での話し合いの中で行政区を合併ということであれば、市として支援していく。市内では、大野地区の市街地のほうで、行政区の合併について話し合いを始めたところもある。

- ◆住民自治の検討に、目標年度はあるのか。目標期限がないと、話が消滅してしまわないか。以前、阪谷地区で交通関係の移動支援の話があったが、あれはどうなったか、みたいにならないか。

⇒いつまでに組織を立ち上げるとか、いつまでに計画を策定するとか、目標年度は設定していない。地区の状況に合わせて進めていってもらえばよい。

なお、移動支援の話は、阪谷地区では柿ヶ嶋地区で実証実験しているほか、小山地区で移動支援の事業を開始する予定となっている。

- ◆組織ありきで進めているのではないか。組織の在り方も地区にゆだねることが必要で、新たな組織をつくるのではなく、例えば区長会でといった形で、既存の組織を利用し、新たな組織を生み出さなくてもよいのではないか。阪谷地区では、地区の課題についても話し合いができた、阪谷小学校の跡地利活用協議会がよかった。

- ◆住民自治の方針という意図はよく分かるが、自分たちの集落のことが心配になる。今は役をもって仕方なくやっているが、下の年代がない。自助共助があてにならず、集落コミュニティでの見守りも10年後、20年後には死活問題になる。将来の負担を減らし、若い人は年を取ってから地域貢献してほしい。

- ◆高齢者、特に後期高齢者は守るべき者という立場で考えられがちだが、まだまだ元気なものも多く、高齢者の知恵を活動する場や、高齢者相の集いの場など、高齢者を地区のために活かす、高齢者の活躍の場があるとよい。

- ◆地域内で温度差があり、会議を開催しても同じ人が出席している、そのような状況では若い人にバトンタッチができない。目標年度はないというが、住民自治の話は、阪谷地区では短期間で進めていく必要がある、市から言われるのではなく、市に提案できるようになるくらいでないといけない。その中で、若い人の意見もしっかり聞いてすすめていく必要がある。

締めくくりに

住民自治の話は、今後取り組んでいくことになるが、農用地の保全や小学校跡地利活用の話と合わせて進めていくことになると考えている。これからの阪谷地区の住民自治の検討には、住民意識やニーズの把握のためのアンケート調査の実施や、今後の住民自治についての話し合いの場の設置などが必要になる。

話し合いの場としては、阪谷小学校の跡地利活用協議会の再招集なども考えており、今日のテーマは、地域全体で取り組む課題としてとらえ、進めていきたい。